

文化財や歴史ある建物・庭園

藤田観光グループは創業時より、貴重な文化財や歴史的建造物を数多く有しています。先達から受け継いだ日本の財産であるこれらの文化財、建造物を保全し、未来に引き継いでいきます。

ホテル椿山荘東京

1878年、山縣有朋によって「椿山荘」と名づけられて以来、激動の140年を経た庭園は、現在もあふれるばかりの緑と格調高い造形美で、訪れる人々に深い感銘を与えています。庭園内には、室町時代に建てられたといわれる「三重塔」や、茶室「残月」などの国登録有形文化財をはじめ、般若寺式石燈籠、伊藤若冲の下絵による羅漢石など、歴史的建造物・史跡が点在しています。また、春の桜、夏の蛍、秋の紅葉、冬の椿や雪景色など、四季折々でその表情を変える美しさと風情で訪れる人を魅了します。



国登録有形文化財「三重塔」

箱根小涌園

藤田観光の創業の地でもある箱根小涌園には、2棟の国登録有形文化財があります。1918年に藤田平太郎の別邸として建築された純和風の日本家屋「貴賓館」。室内の装飾は当時の最高技術が施され、庭園とともに現在も当時の面影をそのまま残しています。現在では蕎麦処として営業しており、100年前と変わらない景色が広がる窓から、当時の文化や自然を感じることができます。もう一つの国登録有形文化財である「迎賓館」は、1875年、宮大工により建築された庄屋屋敷です。樺を主材として松や栗などの建材を使用した重厚な造りで、当時の梁や柱を残しており、歴史ある空間で特別な時間をお楽しみいただけます。



国登録有形文化財「蕎麦 貴賓館」

太閤園

「太閤園」は、明治時代、藤田傳三郎が淀川畔に築造した屋敷がもととなります。本邸、西邸、東邸と豪壮を誇った藤田邸の大半は1945年の戦災で焼失しましたが、唯一残った東邸周辺が、「太閤園」として生まれ変わりました。東邸は現在、四季折々に美しい表情をたたえる庭園と由緒ある佇まいを有する料亭「淀川邸」として使われています。敷地内に築かれた築山式回遊庭園では、小豆島や生駒山などから集めた自然の奇石、珍石を庭石に使用。また、歴史ある燈籠や石仏塔なども日本全国から集められました。



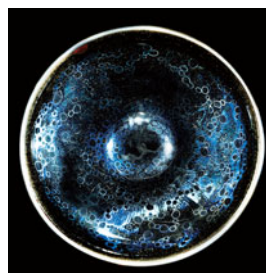
料亭「淀川邸」

藤田美術館への支援活動

藤田財閥の創立者である藤田傳三郎と、長男平太郎、次男徳次郎が明治初年から大正にかけて収集した東洋古美術品を中心としたコレクションを公開する目的で、1951年に設立、1954年に開館した「藤田美術館」。

古美術や茶道への造詣が深かった父子が収集した絵画、書跡、陶磁器、彫刻、漆工、金工、染織、考古資料など約2,000件が収蔵され、そのうち9件が国宝、53件が重要文化財に指定されています。藤田観光はルーツのつながりこうした文化財の保存を目的として、公益財団法人藤田美術館への寄付とPRなどの支援を行っています。

※藤田美術館は、施設の全面的な建て替えのため、長期休館しており、2022年4月にリニューアルオープン予定です。



国宝 曜変天目茶碗 (撮影:三好和義)



国宝 玄奘三蔵絵